

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	スクラム		
○保護者評価実施期間	2024年12月1日		～ 2024年12月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	2024年12月1日		～ 2024年12月24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2024年2月1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの満足度が高い	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの願いや思いを大切に活動を提案している。 子どもの「楽しい」を真ん中に、様々な体験活動を取り入れ、画一的な活動にならないよう工夫している。 	引き続き、放課後は子ども達の時間である認識を持ちながら、繰り返しの活動の中でも、その中で子ども達が新たな発見や楽しみを模索できるよう工夫を行っていく。
2	保護者との交流の催しが多い	<ul style="list-style-type: none"> 各イベントや親子活動を定期的に行い、保護者同士の交流や保護者がスタッフや他利用児とも交流を持てるよう取り組んでいる。 交流会の際は、保護者同士で語り合う時間を設定し、意見交流の場としている。 	引き続き、機会を多く持つことで、保護者がスクラムの運営や活動に対して意見を寄せやすいオープンな雰囲気作り、また保護者同士の交流の中で、子育ての悩みを共有できる雰囲気作りを行っていく。
3	地域世の交流・地域資源の活用	<ul style="list-style-type: none"> 地域の施設を利用する中で、地域の人と交流できる機会を作っている。 子ども達が制作した作品を、地域の施設で展示することで、地域の方に福祉的事業の取り組みや障害児について知ってもらう機会を設けている。 地域の方を招き活動(清掃・餅つき) 	コロナ禍の影響で一時期地域との交流が少なくなったが、徐々に交流の機会も増えているので、継続して地域に開かれた事業所運営、障害児と地域社会の共生に繋がるよう取組んでいく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の子どもの交流の機会が少ない	<ul style="list-style-type: none"> コロナの影響でイベント等機会が減っていた。 どんな目的を持って、地域の子どもと障害児が放課後交流をするのかを模索している段階。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事を地域に開放していく。 公園あそびの際は積極的に交流できるよう、打合せ段階から地域の子どもがいた場合を想定していく。 他事業所の取り組みを参考に、放課後の場で地域の子どもと交流する目的を明確にしていく。
2	安全や防災についての取り組みの発信や周知について	<ul style="list-style-type: none"> お便り等でお知らせをしているが、頻度や掲載の仕方に課題があるのか、保護者にはあまり伝わっていない状況がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 発信の仕方や方法について今一度見直しを行い改善していく。 親子活動において防災についても取り扱ったり、保護者と連携した避難訓練を行ったりするなど、意識の共有を図れる取り組みを模索していく。
3	子どもの相談に対する体制の明確化や迅速な対応	<ul style="list-style-type: none"> 相談窓口は設定されているが、各スタッフへ連絡がくるなど、「誰に相談すれば解決するか」ということが明瞭な状況ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者に意見を求め、「相談についての困りごと」等、戸惑っている原因を明確にし、体制を考えていく。 迅速に相談に対応できるよう、スタッフ会議でも対応スピードを意識していく。